

か、false positive を減らすには、どのように工夫しているか。

回答 (弘前大) 西村 幸也

① CT や単純 X-P 線写真を調べなおし、また経時的に bone Scinti., tumor Scinti. を繰り返すなどして確かめるが、実際の判定には、follow up による長期予後も参考にした。

② bone scinti. で転科ありと判定されても、すぐに照射等の治療を行うのではなく、もう一度他の所見を調べなおし、場合によっては経過をみるようにしている症例もある。

312. 画像処理システム自動細胞診断装置の改良とフィルードテストの解析

(金沢医大)

石間 友明, 桑原 惣隆, 杉浦 幸一
高林 晴夫, 富田 哲夫, 加藤 彰雄
小林 秀文, 吉沢 久, 池田 裕也
浮田 俊彦

(同・臨床病理部) 武川 昭男

目的：子宮頸癌の早期診断の為の集団検診の普及に伴ない細胞診の自動化による省力化が望まれている。当院では PAP 染色した塗抹細胞の画像処理による細胞診自動スクリーニング装置を集検に応用し、従来より検討を重ねているが、今回は検体の前処理と装置の診断基準を一部改善して集検に使用し、更に問題点を解析し、より高度の自動化装置の開発と実用化を目的として研究を行なった。

方法：本装置の診断理論は「あいまい度」の検定の上、選定された検体上の各細胞画像の特徴パラメータとして N/C 比、核面積、核平均濃度、核形状を選定し、自動焦点調節下、20倍対物鏡像を 4μ 及び 1μ のライニングスポット走査により算定し上記 4 種のパラメータに一定の重み係数を乗じた値の総和を異型度としている。診断は一標本につき 300 個までの検出細胞の異型度と、その出現頻度の分布を既知の良性及び悪性標本の各分布と kormogrov-Smirnov 検定により、統計的に比較判別し、Normal, Suspicious, Reject と自動判定するものである。県内特定地区の検診者を対象とし、1977年より1981年までの10,549例と1981年以降、前処理と診断基準の一部を改変した後の9,010例についての成績を比較検討した。改変内容とは、遠心沈渣の3倍稀釈を分散液としていたものを2倍稀釈として検出細胞の増加を計ったことと、Reject 基準の一つである 1mm^2 当たりの平均検出細胞数を2個より4個

に引き上げたことである。

成績：偽陽性率は改変の前後で41.8%より28.3%と減少し、Reject 率は4.7%より7.0%と若干増加を認めた。一方、癌を含む異常例は改変前後で28例と7例あり何れも Suspicious と選別し誤判定はなかった。この方法による自動スクリーニングの成否は標本の良否に強く左右されることも実証した。

独創点：画像処理システムの子宮頸癌自動細胞診断装置の機能を格段に改善し、集団検診のための実用化を進めた点。

質問 (杏林大) 鈴木 正秀

このような自動診断装置が開発されてくると将来医師、サイトスクリーナーなどの実際の省力化になるのか。

回答 (金沢医大) 石間 友明

プレススクリーニングとしては十分にスクリーナーの省力化になると思う。実際偽陽性率20~30%、Reject 率5%前後を示し、それを除いた分60~70%が省力化されると思う。

313. コルポ異常所見としての異常腺口の細分類とその意義

(近畿大)

池田 正典, 堀井 高久, 井上 芳樹
手島 研作, 野田起一郎

IFCPC および日本頸部病理コルポスコピー研究会の新分類が提唱されて以来、コルポスコピーの臨床的価値は飛躍的に向上した。しかし、この分類のみでは表現できないいくつかの所見があり、特に腺開口周囲に一定の幅の白色のリングを伴う所見(異常腺口、以下 aGO と略)は重要な意味を持つと考えられる。今回は aGO の持つ意味、定義およびその組織背景を明確にすることを目的として検討を行なった。検討症例は当科で手術を受け最終的に診断の確定した患者のうち UCF 例を除いた診断の確定した患者のうち UCF 例を除いた高度異形成上皮96例、上皮内癌119例、微小浸潤癌185例、Ib 期癌109例の509例で、これらの症例についてコルポ像の解析と12ブロックの亜連続切片による病変の再構築から各コルポ所見と組織像との関係について詳細な検討を行なった。その結果、① aGO が認められたのは高度異形成上皮96例中37例(38.5%)、上皮内癌119例中36例(30.2%)、微小浸潤癌185例中90例(48.6%)、Ib 期癌109例中10例(9.2%)と子宮頸部初期病変におけるコルポ異常所見としての aGO の意義は極めて重要と考えられた。② aGO をその色調、厚

さ、隆起度、周囲との境界などから3段階に区別し組織診断と対比した結果、aGO₁では49所見中26所見(53.1%)に高度異形成上皮が、aGO₂では62所見中20所見(32.3%)に上皮内癌、29所見(46.8%)に微小浸潤癌が、aGO₃では20所見全部に微小浸潤癌が認められた。③ aGOの所見が主体を占めた38例の詳細な組織学的検討より、組織像との関連からはaGOの存在はgland involvementの形で存在する何らかの異常上皮の存在を示すもので、その質的診断に関して言えば、aGO₁は高度異形成上皮あるいは上皮内癌、aGO₂は上皮内癌あるいは微小浸潤癌の存在を示唆する所見と考えられ、特にaGO₃の所見は微小浸潤癌の存在を強く疑う所見と考えられた。

314. 針状腹腔鏡による卵巣悪性腫瘍患者の follow up

(東海大)

篠塚 孝男, 小林 善宗, 黒島 義男
見常多喜子, 井上 正人, 古橋 進一
貴家 桂子, 松浦 俊一, 藤井 明和

目的：卵巣悪性腫瘍に対する治療成績の向上のためには、再発の早期発見を目的とした長期にわたる follow up が不可欠である。すでに second look operation の有効性は明らかであるが、3rd look 以上の追加 operation を頻回に行うことは困難である。そこで、手術侵襲が少なく、しかも頻回に行えて、直視下に観察が可能である腹腔鏡、とくに縫合を必要としない針状型を用いて、6M 毎に定期的な卵巣悪性腫瘍患者の腹腔内検索を行い、その臨床的有効性について検討した。

方法：対象は、腺癌を中心とした卵巣悪性腫瘍患者23名で、I期11名、II期3名、III期9名にて術後、化学療法後の治療効果判定を行ったのち、I期は6~9M 毎に、II・III期では6M 毎に腹腔鏡検査を行った。肝表面・横隔膜下を含めた腹腔内観察の他に、組織診、腹水 smear、骨盤底 brushing smear, washing smear を採取し検査した。

成績：I期11名では、化学療法後12~49M 間に2nd ~3rd look を行い、陽性例ではなく、現在の再発例もない。II期3名では、3~17M 間に2nd ~4th look を行い、陽性例はなく、再発例はない。III期9名では、9~49M 間に、2nd ~4th look を行い、6名に8回の陽性所見を得た。5名は所見・組織診・smear とともに陽性で、1名は組織診・smear のみ陽性であった。2名は死亡、4名は追加治療後、follow up 中である。陽性所見のない3名は現在再発はない。

独創点：卵巣悪性腫瘍患者に対し、6M 毎の針状腹腔鏡検査が、再発の早期発見に十分有効であることを明らかにした点。

質問 (長崎大) 増崎 英明

最初の手術から second-look までの期間、あるいは second から third-look までの期間はどのように決められているか。

回答 (東海大) 篠塚 孝男

頻回に行えば行うほど良いとは思いますが、種々の因子を考慮して、現在は6カ月に1度の間隔でやりたいと考えている。

staging 別による検査間隔の長短は、行っていない。

質問 (高知市民病院) 榎木 範夫

① 翌日退院ということだが、麻酔は気管内挿管麻酔か。

② 術後の検査であるので、腸管損傷など合併症が多くなかったか。早期退院による合併症はなかったか。

回答 (東海大) 篠塚 孝男

26例、39回の Laparoscopy において3例の腸管損傷があった。2例は開腹術を行って、損傷部位の、タニコ縫合などの縫合術を行い、他の一例は、Air 針挿入時によるもので、腸管損傷も、ごく軽度であったため、開腹術は行っていない。

副作用、合併症をおそれて、Laparoscopy を行わないよりも、少々の副作用は考えられても、Laparoscopy を行って再発を早期に発見し、早期に対処する方が merit は大きいと思う。

質問 (弘前大) 西村 幸也

卵巣癌の予後を follow up する手段として他の画像診断 (CT, RI study 等)、あるいは tumor marker との比較で、より有用であるというデータがあつたら教えてください。

回答 (東海大) 篠塚 孝男

我々はCTで見つかるような大きな Tumor が発見できるような症例よりも、CT やその他の検査では検出できないような早期の再発を見つけるために、Laparoscopy を行っている。また実際の臨床において、腫瘍マーカーで陽性と出ただけで、副作用の強い、化学療法を行わない。あくまで我々は、組織学的に再発が証明されたものに対して、化学療法を行いたいと考えている。

回答 (東海大) 篠塚 孝男

文献をみると Laparoscopy では false negative が多く、そのため、卵巣癌の follow up には Laparos-